

## 野山～石尊山山行報告

【山行日】2024年 3月 3(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 7:30

【費 用】マイカー3台 : 600円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:大西

青柳、飯口、植竹、大塚、嶋田、清水、関、  
富田、野口、福田ヒ、藤原ト、藤原フ、渡辺

【コースタイム】岩舟支所 P7:30=参道入口  
P8:00/8:20～天空のテラス 9:00/9:15～野山  
9:45/9:55～剣ヶ峰 11:00/11:10～石尊山  
11:20/11:30～浄因寺 12:05/12:45～妙義山  
13:10～大岩毘沙門天 13:15/13:25～参道入口  
P13:55/14:10=岩舟支所 P14:50



里山陽だまりハイクとして、野山から石尊山を計画した。入会希望者2名が体験山行で参加し、総勢15名が3台の車に分乗し岩舟支所を出発した。国道50号線を走り、足利市街を抜けて大岩毘沙門天の下にある広い駐車場に車を止める。トイレとストレッチを済ませたら、体験山行の方がいるので自己紹介を行ってから出発する。駐車場から道路を渡ると登山口があり、石の門や案内板がある。ここからの登山道が男坂で、かつての大岩毘沙門天への表参道である。広い登山道は土がえぐれて無くなり、岩盤の道に登るので滑りやすい。新しい方が2名参加してるので、賑やかな話声が後ろまで聞こえてくる。急坂を登り切ると平坦な場所に出て女坂を右に分け、道路を横切って石段を



登ると大岩毘沙門天に着く。本堂で安全登山を祈願し、コンクリートで整備された道を進むと大岩天空テラスに出る。ここにはトイレがあり、ベンチや案内板が整備されて、関東平野の絶好の展望台であるが少しやりすぎかな。以前のテーブルとベンチだけの方が、自然を感じられたような気がする。トイレを済ませ展望を楽しんだら野山へ向かう。道路を渡ると小さな案内標識があり、伐採地の縁に沿って登ると剣ヶ峰からの道と合さる。剣ヶ峰からの道を左に進み、尾根上の道を登って行く。稜線上の道を行くと、ヒノキ林の日陰には先日降った雪が残っていたが、歩くのには問題ない。障子岩と言われる展望が良い岩稜に出て、ここからの下りは急な岩場になるので慎重に下って行く。

登ると大岩毘沙門天に着く。本堂で安全登山を祈願し、コンクリートで整備された道を進むと大岩天空テラスに出る。ここにはトイレがあり、ベンチや案内板が整備されて、関東平野の絶好の展望台であるが少しやりすぎかな。以前のテーブルとベンチだけの方が、自然を感じられたような気がする。トイレを済ませ展望を楽しんだら野山へ向かう。道路を渡ると小さな案内標識があり、伐採地の縁に沿って登ると剣ヶ峰からの道と合さる。剣ヶ峰からの道を左に進み、尾根上の道を登って行く。稜線上の道を行くと、ヒノキ林の日陰には先日降った雪が残っていたが、歩くのには問題ない。障子岩と言われる展望が良い岩稜に出て、ここからの下りは急な岩場になるので慎重に下って行く。



どんどん下って行くが中々の山に着かず、SL が「道を間違ったのかな？」と心配そう。「間違っ



ないよ、もうすぐ着くから大丈夫」と言って先に進み、まもなく野山に着く。休憩してリンゴや菓子を食べて、記念写真を撮ったら野山を後にして剣ヶ峰に向かう。往路を戻り天空のテラスから登って来た道を右に分け、直進すると剣ヶ峰に出る。山頂で小休止して水分を補給し、石尊山へ向かう。気持ちが良い稜線を辿ると石尊山に着き、日光連山や赤城山の展望が素晴らしい。展望を楽しみながら果物や菓子をいただき、記念写真を撮ったら浄因寺へ向かう。北側の道を下ると仏法僧峠に

出て、浄因寺へは右に下って行く。途中に寝釈迦の石象がある露岩の四十九院涅槃台に寄り、寝釈迦や石仏群を見てから下る。岩稜を下り不明堂の前を通って石段を下ると、浄因寺境内に着く。ここでランチタイムとし、持ち寄ったお惣菜が皿に盛られて配られ、皆さん美味しそうに食べていた。

浄因寺の奥にはトイレが整備されており、ランチが済んだらトイレを済ませて下山開始する。山門から出て石段を下り、東屋の脇からモノレールを跨いで巻道に行く。石尊山から剣ヶ峰の東側を巻くように道があり、杉林の薄暗い道だがアップダウンが少ない分、疲れた足に優しい道である。皆さんもおしゃべりしながら楽しそうに歩き、大岩毘沙門天上の林道に出る。林道を歩いて天空のテラス手前を右に下り、大岩毘沙門天に出る。大岩毘沙門天の御朱印が欲しいという人がいて、本堂に上がって御朱印をゲット。石段を下って山門をくぐり、女坂を下って行く。谷間の薄暗い道を緩やかに下り、まもなく道路に出て道なりに下ると駐車場に着く。靴を履き替えたら車に乗り、予定通り岩舟支所に帰着した。

